編　集　後　記

今号は投稿が多く内容も充実した印象であった。薬理学の和田教授の生涯教育講座は最近アルツハイマー病に認可されたアミロイドβを除去する画期的なレカネマブの作用機序を分かり易く解説している。しかし，この講座の主眼は日本の新薬開発能力が低下し米国に大差をつけられ，その結果医薬品輸入額が輸出額の6倍にも及ぶ危機的状況にあることを示し日本企業の将来は今後ベンチャー活用，SGLT2阻害薬のようなdrug repositioningをいかに効率的に行うかにかかっているという重要な指摘である。PET/CTがん検診を早期に開始した出雲市立総合医療センターでは625例を集計し全国の結果と比較してがん発見率が高いことを報告し精度の高さを示している。嘉村先生のすこやか委員会アンケートの睡眠と気分の15年間集計報告はまさに「寝る子は育つ」を示す結果で長年の成果が評価される。門脇先生は股関節1ヶ月検診で家族歴，女児，逆子の高危険群は簡単な検査でDDHが予測できることを紹介している。高齢者腸管嚢胞様気腫症の検討は見逃されやすいCT所見に注意する事で治療法選択に役立つことを示している。認知症における運転免許返納は事故防止に重要であるが僻地では交通手段を奪う事にもなり課題も多いことを28例の検討で示している。血管性パーキンソニズム例におけるtDCS有効例は興味深いが画像からNPHも疑われるのでその考察も必要と思われる。　（S.K）

島根医学編集委員

浅野博雄，貴谷　光，児玉和夫，大居慎治，齋藤寛治，
細田眞司，小阪真二，田邊一明，小林祥泰，椎名浩昭，
古和久典

島根医学
令和5年12月31日発行

発行者　島根県医師会
編　集　松江市末次町
編集者　浅野博雄

発行所　松江市学園南2丁目3番11号
有限会社　松陽印刷所